



## 第41期 ビジネスレポート

2017年1月1日 ▶ 2017年12月31日

ミズホメディーは  
“**もっと人のために**”をテーマに  
皆様から信頼される製品を  
開発・提供してまいります。

# 株式会社ミズホメディーとは

## ミズホメディーの 運営基本方針

体外診断用医薬品は、著しく急激に進歩し、高度化・専門化しています。

お客様に信頼される製品を供給し続けるため、ミズホメディーは

## もっと人のために

をテーマに下記の6つの運営基本方針を定め、企画・開発・製造・販売に取り組んでおります。



## 1.事業内容

# 医療用及び一般大衆薬分野の双方にて価値ある製品の供給を通じ社会に貢献

## 企画開発から製造、販売までの自社一貫体制

当社は、主に体外診断用医薬品に関し特許権利取得を視野に独自の研究開発や産学官共同研究を実施しております。また、ISO13485品質マネジメントを骨格とした自社一貫体制を構築し、各組織では有能で経験豊富なスタッフが事業活動を行っております。

### ISO13485品質マネジメント



## 2.業績の推移

## 持続的成長の実現

### 直近10年間の売上高の推移



## 病院・開業医分野

診断分野の中でも最も市場規模が大きい免疫血清検査薬が当社の主力製品です。中でもインフルエンザやマイコプラズマ等の感染症の検査薬については、大病院だけでなく中小病院や開業医を中心として市場は拡大しており、迅速で簡易な検査技術であるイムノクロマト法を用いた多くの製品を販売しております。

(機器)  
**クイックチェイサー  
Immuno Reader II**

業界に先駆けて  
機器試薬システムの製品化を実現

(試薬)  
**クイックチェイサー Autoシリーズ**

- Auto Flu A,B
- Auto Myco
- Auto RSV/Adeno
- Auto Adeno
- Auto StrepA

免疫血清検査薬 **クイックチェイサーシリーズ**  
機器を用いない検査薬(全国の様々な医療機関に普及)

- インフルエンザウイルス
- ノロウイルス
- 肺炎球菌/レジオネラ
- ロタ/アデノウイルス
- RSV/hMPV
- Myco
- StrepA
- RSV
- hMPV
- 肺炎球菌
- アデノウイルス
- 便潜血
- HBV(B型肝炎)
- TPAb(梅毒抗体)

## OTC・その他分野

当社では、OTC検査薬として最も知名度が高い妊娠検査薬を、一般用検査薬として許認可された1992年より販売しております。また、妊娠しやすい時期がわかる排卵日検査薬を全国の薬局・薬店、ドラッグストア等を通して販売しており、昨今、社会問題となっている少子化対策に貢献しております。

**P-CHECK・S**

99%以上の正確さ、1分から判定可能、初めての方でも簡単に検査できる妊娠検査薬

**ハイテスター**

2016年から武田コンシューマーヘルスケア株式会社へ排卵日予測検査薬「ハイテスターH」及び妊娠検査薬「ハイテスターN」の供給を開始

\*OTC(Over The Counter):医師の処方箋がなくても購入できる医薬品で薬局・薬店、ドラッグストアなどでカウンター越しに販売することに由来した名称



## 新工場・研究開発施設の建設を推し進め、医療現場からの様々なニーズに応えるPOCTメーカーとしての成長を確固たるものとしてまいります。

株主の皆様には平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社第41期(2017年1月1日～2017年12月31日)の経営成績がまとまりましたので、ここに事業の概況等につきましてご報告申し上げます。

代表取締役会長兼社長 唐川 文成

**Q** 当期の経営環境や決算のポイントなどについて教えてください。

**A** 当初計画を上回る増収及び大幅増益を達成することができました。

インフルエンザウイルスやノロウイルスなど感染症の早期診断に対する国民の意識が高まる中、医療への期待は「治療」から「予防」や「ケア」へとシフトしております。特に感染症分野では、小児・老人医療における感染拡大の防止など早期治療に有用となる診断技術への期待も大きく、国内外を問わず新技術による微生物検査や遺伝

### ● 当期決算ハイライト

売上高	56億24百万円 (前期比 13.4%増)	▲
営業利益	8億50百万円 (前期比 60.6%増)	▲
当期純利益	6億60百万円 (前期比 67.0%増)	▲

子検査が臨床現場へ普及していく段階にあります。このように体外診断用医薬品関連企業にとっては、医療現場のニーズに応える診断薬開発、海外市場を視野に入れた製品開発が求められる状況にあります。

このような環境の中、当社は、医療現場からの様々なニーズに応えるPOCT（診療室・病棟及び外来患者向け診療所など患者に近い医療現場での検査）メーカーとして、新しい検査技術や新製品の開発を推進するとともに、既存製品の改良にも尽力してまいりました。また、競争力強化のために生産性の効率化にも注力するなど、企業価値の向上に取り組んでまいりました。

これらの結果、インフルエンザの2017/2018シーズンの流行が前シーズンと同様に例年より早く始まったことによる増収と、それに伴う売上総利益の増加及び経費削減効果により、売上高は56億24百万円（前期比13.4%増）、営業利益は8億50百万円（同60.6%増）、経常利益は8億51百万円（同62.2%増）、当期純利益は6億

60百万円（同67.0%増）と、当初計画を上回る増収及び大幅増益を達成いたしました。

**Q** 昨年製造販売承認申請されました呼吸器感染症遺伝子薬の状況について教えてください。

**A** 2018年2月19日付で、遺伝子POCT検査として用いることができるマイコプラズマ核酸キット「スマートジーンMyco」の国内製造販売承認を取得いたしました。

本キットは、小型の専用装置を用いて、遺伝子の抽出・増幅・検出の全ての工程を1つのカートリッジ内で1ステップかつ短時間で行うことができます。これまで、感染症診断における遺伝子検査は、煩雑な遺伝子抽出操作のため時間がかかる上、特殊で高価な装置を要することから、大学病院や検査センターに限られていました。本キットは、開業医・診療所の医療現場において、簡易迅速かつ高感度に感染症の検査を実施することができ、かつ早期の確定診断が可能となり、感染初期の投薬や治療方針の決定に大いに貢献できるものと期待しております。

**Q** 研究開発及び製造体制の状況について教えてください。

**A** 検査キットの旺盛な需要増を見据え、新用地を取得し工場建設に着手することいたしました。

当社は、体外診断用医薬品分野における新たな診断

技術として、遺伝子検査システムの研究開発に取り組んでおります。他方、近年では感染症迅速診断システムの専用機器を用いる検査キット『クイックチェイサー Autoシリーズ』の売上増加が著しく、本社工場の生産能力の増強が喫緊の課題ともなっておりました。

このような状況の中、当社では遺伝子検査キットの新規製造工場の建設と、『クイックチェイサー Autoシリーズ』増産のための生産能力の増強の双方に対応するためには、本社敷地内の利用可能面積では充分ではないとの経営判断に至り、このたび新たにより広い用地を取得の上、両検査キット用の新規製造工場を建設することといたしました。また、遺伝子検査システムの評価、改良を含めた継続的な研究開発に向け、建物内には研究施設を設け、2019年度、工場・研究所として稼働させる予定であります。

なお、新工場の詳細につきましては、当該設備の新計画に進展があり次第、適宜ご報告させていただきます。

**Q** 来期(2018年12月期)の見通しについてはいかがですか？

**A** 病院・開業医分野の伸長を牽引役として、増収増益を計画しております。

来期の業績見込みとしましては、売上高は63億76百万円(前期比13.4%増)、営業利益は9億13百万円(同7.5%増)、経常利益は9億17百万円(同7.8%増)、当期純利益は7億7百万円(同7.2%増)を計画しております。

病院・開業医分野におきましては、主力製品のインフ

● 2018年12月期業績の見通し

	業績予想	増減率
売上高	63億76百万円	13.4%増
営業利益	9億13百万円	7.5%増
経常利益	9億17百万円	7.8%増
当期純利益	7億07百万円	7.2%増

ルエンザ検査薬をはじめその他の感染症項目の検査薬のシェア拡大と、新たな検査項目の製品投入による品揃えの拡充を図ってまいります。また、2018年2月19日付で国内製造販売承認を取得いたしましたマイコプラズマ核酸キット「スマートジーンMyco」については、速やかに販売に向けて準備を進め、今夏頃の発売を予定しております。

OTC・その他分野におきましては、妊娠検査薬は、他社の新規参入や価格競争等により売上高は、伸び悩みました。排卵日検査薬は、一般用検査薬への転用により、薬局向けの自社ブランド製品の売上高は、減少傾向にあるものの、一般用検査薬である武田コンシューマーヘルスケア株式会社向け製品の売上高は、堅調に推移しました。今期は、同社の本格販売が始まったことにより、排卵日検査薬の売上高は、増加するものと期待しております。

新製品トピックス

クイックチェイサー Adeno 眼



当社独自の技術により、「結膜滲出液を含む涙液」を検体とし患者に痛みを与えることなくアデノウイルス結膜炎の検査が可能となりました。迅速キットと、機器を用いた高感度キットの2種類を、株式会社日本点眼薬研究所(本社：名古屋市南区)を通じて眼科を対象に発売いたしました。

クイックチェイサー Auto Adeno 眼



クイックチェイサー肺炎球菌/レジオネラ



肺炎を引き起こす起炎菌である肺炎球菌とレジオネラの2種類の細菌を、1回の操作だけで同時に検出できる検査キットを発売いたしました。

クイックチェイサーImmuno Reader II



「クイックチェイサー Immuno Reader」の後継機にあたり、医療現場のニーズに対応すべく、カラー液晶のタッチパネルを採用する等、機能の充実を図っております。

## 病院・開業医分野



2017年度実績  
売上高  
**50億71**百万円  
(前期比 16.1%増)

国内外の医療機関向けに、ウイルスや細菌の感染の有無等を診断する「クイックチェイサーシリーズ製品」等の免疫血清検査薬を販売しており、中でもインフルエンザウイルスやアデノウイルス等の感染症検査薬は中小病院や開業医・クリニックの医療現場において普及しております。「クイックチェイサーシリーズ製品」は、迅速で簡易な検査技術を用いた製品群が高い評価を受け、着実に売上が拡大しております。

### 当期の概要

- 病院・開業医分野の売上高は前期比16.1%増の50億71百万円
- インフルエンザ検査薬の売上高は、流行が例年より早く始まったこと等もあり、前期比16.4%増の28億22百万円
- アデノウイルス検査薬等のその他感染症項目の検査薬も堅調に推移
- マイコプラズマ検査薬、眼科用アデノウイルス検査薬及び肺炎球菌/レジオネラ検査薬などの新製品も売上高の増加に寄与



### ● 主な製品のご紹介

#### 感染症迅速診断システム



高感度及び自動検出の実現により客観的な判定が可能です。

#### 研究用試薬

多剤耐性菌の検出で院内感染伝播の迅速な監視などに役立っています。

#### クイックチェイサーAutoシリーズ



感染症迅速診断システムの専用試薬シリーズです。

#### 生化学用検査試薬

コレステロール・尿酸・中性脂肪などがあります。

#### インフルエンザウイルス検査キット



インフルエンザの診断ができます。

#### 一般検査用試薬

便潜血検査などがあります。

#### ノロウイルス検査キット



ノロウイルスによるものかどうかわかります。

## OTC・その他分野



2017年度実績  
売上高  
**5億53**百万円  
(前期比 6.9%減)

OTC分野では、妊娠検査薬「P-チェック・S」を自社ブランド製品として販売し、ドラッグストアのプライベートブランド製品としても「S-チェッカー」「プレセルフ」等の製品名で販売しております。また、妊娠しやすい時期を的確に予測する排卵日検査薬「P-チェック・LH」も主力製品の1つです。その他分野では、農作物の苗木などのウイルス病を見つけるため、免疫血清検査薬の技術を応用した果樹ウイルス検査薬を農業試験場等へ販売しております。

### 当期の概要

- OTC・その他分野の売上高は前期比6.9%減の5億53百万円
- 妊娠検査薬は、他社の新規参入や価格競争等により伸び悩む
- 排卵日検査薬は、一般用検査薬への転用の影響により、薬局向けの自社ブランド製品の売上高は減少傾向であった一方、一般用検査薬である武田コンシューマーヘルスケア株式会社向け製品の売上高は堅調に推移



### ● 主な製品のご紹介

#### 妊娠検査薬P-チェック・S



99%以上の正確さで1分から判定可能です。また生理予定日の1週間後から検査可能で、朝/昼/夜いつの尿でも検査ができます。

#### 排卵日検査薬P-チェック・LH



独自の特許技術により、低域から高域まで幅広くLHの増加を検出します。最も妊娠しやすい時期が約1日前に分かります。

#### 農業分野向け製品

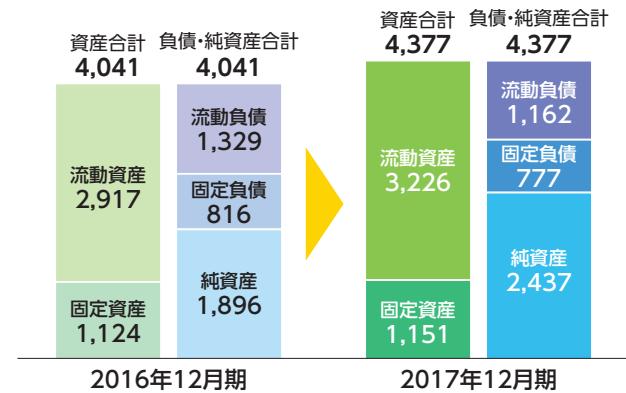


農林水産省高度化事業の共同研究成果として、カンキツ栽培における温州萎縮ウイルス感染を15分で迅速診断する「SDVクロマト」を販売しております。

## 財務インフォメーション

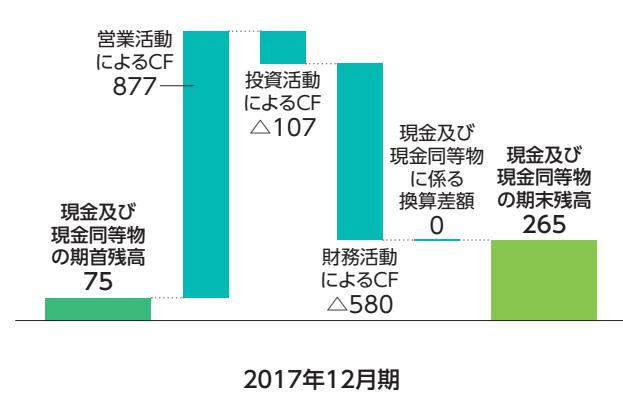
### ● 財政状態の概要

(単位: 百万円)



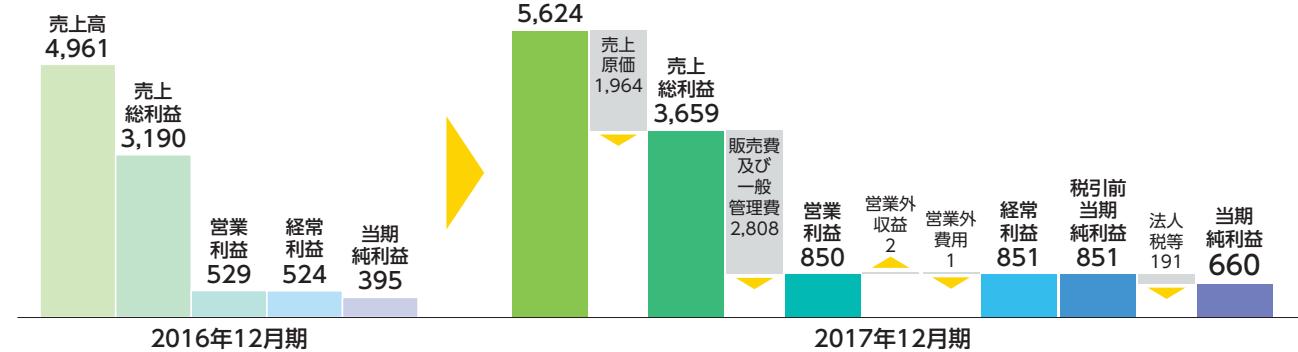
### ● キャッシュ・フローの概要

(単位: 百万円)



### ● 損益の概要

(単位: 百万円)



#### 財務諸表分析

- 販管費は1億47百万円増加するも、増収に伴い売上総利益はそれを上回る4億69百万円の増加を達成し、利益体質を着実に強化できました。
- 長短借入金の減少4億59百万円、利益剰余金の積み増し5億40百万円により、自己資本比率は8.8ポイントアップし55.7%となりました。
- 現金及び現金同等物の期末残高は1億90百万円増の2億65百万円となりました。営業CFは、法人税等の支払を主因とするCF減少があったものの、税引前当期純利益8億51百万円などにより、8億77百万円増加しました。

## 会社概要／株式情報

(2017年12月31日現在)

### ● 会社概要

本社 佐賀県鳥栖市藤木町5番地の4  
 設立 1977年11月2日  
 資本金 4億6,454万円  
 代表者 代表取締役会長兼社長 唐川文成  
 従業員数 157名

### ● 役員 (2018年3月29日現在)

代表取締役会長兼社長	唐川 文成	取締役(社外)	佐々木 克
常務取締役	今村 正	取締役(社外)	秋山 伸一
取締役	市丸 和広	常勤監査役	立石 貞則
取締役	佐々木 寛	監査役(社外)	重見 亘彦
取締役	檜原 謙次	監査役(社外)	橋本 高吉
取締役	神原 俊夫		

### ● ネットワーク



### ● 株式の状況

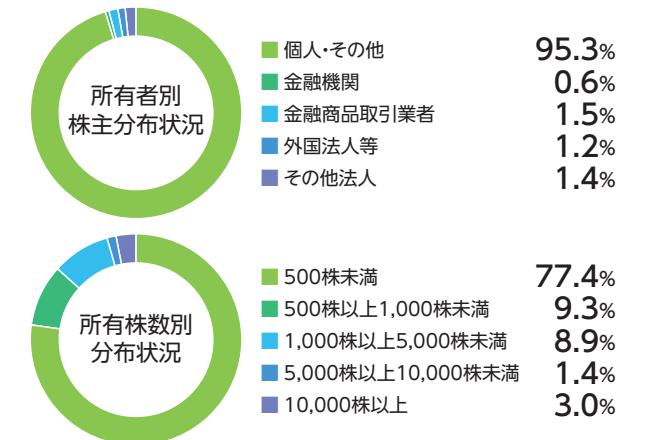
発行可能株式総数 16,920,000株  
 発行済株式総数 4,762,800株  
 株主数 1,455人

### ● 大株主の状況

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
唐川 文成	1,697	35.63
ミズホメディー社員持株会	357	7.50
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	269	5.65
株式会社SBI証券	255	5.36
唐川 則康	134	2.82
山口 貴弘	133	2.80
日本トラスティサービス信託銀行株式会社(信託口)	101	2.13
山口 和也	100	2.09
株式会社西日本シティ銀行	100	2.09
立石 貞則	96	2.01
渡邊 亀四郎	96	2.01

(注)持株比率は、自己株式(336株)を控除して計算しております。

### ● 所有者別／所有株数別分布状況



## ミズホメディー IR情報

当社WebサイトのIR情報ページでは、決算情報などのIR関連情報をタイムリーに配信しております。また、株主・投資家の皆様専用のお問い合わせ電子メールアドレスもございますので、お気軽にご利用ください。



ミズホメディー

<http://www.mizuho-m.co.jp/ir/index.html>

✉ [ir@mizuho-m.co.jp](mailto:ir@mizuho-m.co.jp)

### IRメール配信のお知らせ

当社では、株主・投資家の皆様向けにIRメールを配信しています。配信をご希望の方は、右記アドレス(<https://rims.tr.mufig.jp/?sn=4595>)から簡単にご登録(無料)いただけます。

※IRメール配信サービスは、三菱UFJ信託銀行株式会社が運営しています。



## ● 株主メモ

事業年度	1月1日～12月31日
期末配当金受領 株主確定日	12月31日
定時株主総会	毎事業年度末日の翌日より3カ月以内
株主名簿管理人 特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 ☎ 0120-232-711 (フリーダイヤル) (郵送先) 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)
公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載URL <a href="http://www.mizuho-m.co.jp/">http://www.mizuho-m.co.jp/</a> (ただし、電子公告によることができない事故、 その他のやむを得ない事由が生じたときには、 日本経済新聞に公告いたします。)

このビジネスレポートに記載されている業績予想等の将来に関する事項は、現時点で入手可能な情報から得られた判断に基づくものであります。実際の業績等は予期しない経済状況の変化をはじめ、様々な要因により異なる結果となり得ることをご承知おきください。また、医薬品に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではございません。

 株式会社 ミズホメディー

〒841-0048 佐賀県鳥栖市藤木町5番地の4

TEL : 0942-85-0303

FAX : 0942-85-0312



